

# 中通りと浜通りにおける納豆用極小粒大豆 「すずほのか」の栽培法

福島県農業総合センター 作物園芸部  
平成17年度農業試験場試験成績概要  
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要  
分類コード 02-05-15000000

部門名 普通畑作物 - 大豆 - 栽植様式・栽植密度  
担当者 遠藤あかり・佐々木園子・二瓶直登・水野由美子

## 新技術の解説

### 1 要旨

福島県において納豆用極小粒大豆「すずほのか」は「コスズ」より低収であるが、中通り・浜通りにおいて晩播で畦間を70cm、株間を10cmとすることで、「コスズ」並みの収量が得られる。

- (1) 「すずほのか」は、中通りにおける慣行の栽植密度では標播より晩播で収量性が優れる。(図1.2)
- (2) 晩播において畦間を狭めることで、 $m^2$ あたりの莢数が増加して増収する(表1)。他方、畦間を狭めることで倒伏も増大することから、株間は10cmが適する(表1)。
- (3) 晩播で株間を10cmとして畦間を60cmと狭めることで一層増収が期待できる(図3)。

### 2 期待される効果

本成果は福島県における中通り・浜通りでの「すずほのか」の普及に向けて、栽培指針として活用できる。

### 3 適用範囲

中通り・浜通り地域

### 4 普及上の留意点

- (1) 栽植密度以外の栽培管理は慣行に準じ、倒伏防止のための培土は必要である。

# 具体的データ等

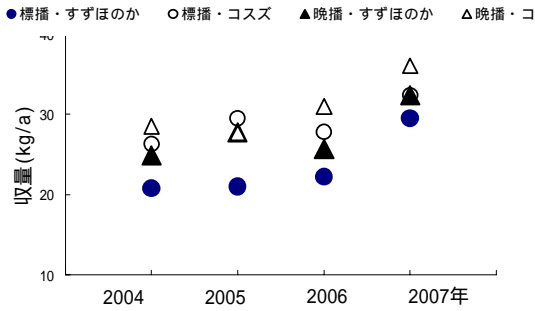


図1 播種期の違いと収量(郡山)  
 注) 標準: 5月下旬 畦間70cm・株間20cm(1株2本立)  
 晩播: 6月下旬 畦間70cm・株間10cm(1株2本立)

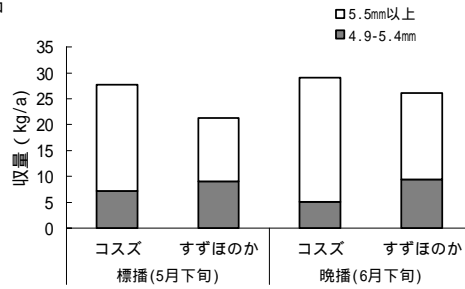


図2 極小粒規格収量(郡山)  
 注) 2005年~2007年3カ年の平均  
 注) 標準: 畦間70cm・株間20cm(1株2本立)  
 晩播: 畦間70cm・株間10cm(1株2本立)

表1 「すずほのか」の異なる株間における生育・収量

試験場所	株間	栽植密度(本/m <sup>2</sup> )	成熟期(月/日)	主茎長(cm)	分枝数(本)	稈実莢数		倒伏	全重(kg/a)	収量(kg/a)	同左コスズ比	百粒重(g)
						(莢/本)	(莢/m <sup>2</sup> )					
郡山	10cm	28.6	10/12	59	4.2	56	1610	1	59.2	28.3	86	10.8
	5cm	57.1	10/12	65	3.9	44	2503	2	63.5	29.2	89	11.5
	コスズ・10cm	28.6	10/16	72	5.0	74	2108	3	66.3	32.9	100	11.3
相馬	15cm	19.0	10/8	66	5.1	81	1651	2	50.1	18.7	83	9.3
	10cm	28.6	10/6	73	4.6	74	2227	3	55.5	21.8	97	9.6
	5cm	57.1	10/6	72	4.2	39	2370	4	60.0	20.3	90	9.3
	コスズ・15cm	19.0	10/14	78	6.1	98	2036	4	54.6	22.5	100	9.5

注1) 数値は2006年、2007年の2カ年平均である。  
 注2) 試験条件 畦間70cm、播種日 郡山:2006年6月19日、2007年:6月20日 相馬:2006年6月14日、2007年6月8日  
 注3) 倒伏程度 0:無 1:微 2:少 3:中 4:多 6:甚 収量 粒径4.9mm以上の精子実重

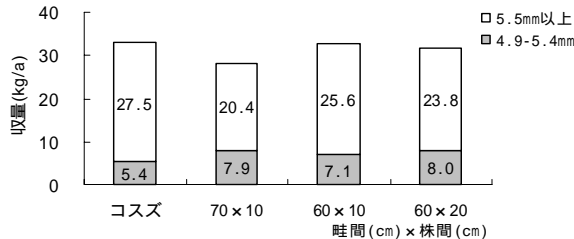


図3 「すずほのか」の異なる畦間における収量(郡山)  
 注) 2006年、2007年の2カ年平均である。  
 注) 播種日 2006年6月20日 2007年6月19日  
 注) コスズは畦間70cm × 株間10cmである。  
 注) グラフ中の数字は各規格の収量である

## その他

### 1 執筆者

遠藤あかり

### 2 主な参考文献・資料